

- I 主題名 「つらくてもやり抜く気持ち」
資料名 がんばれポポ（みんなのどうとく「学研」）

II 主題について

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

低学年の指導項目1－(2)は、「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。」となっている。中学年1－(2)「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」高学年1－(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」に発展していく。

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切である。そこには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。しかし、それは見通しもなく取り組むのではなく、よりよい自己を実現しようとする向上心と結び付けてこそ、前向きな自己の生き方が自覚されてくるといえよう。そのためにも、より高い目標を立てたり、自分としての夢や希望を掲げたりして、その達成や実現への志をもち、勇気をもって取り組むことができるようにすることが重要である。

この段階においては、やらなければならないことを素直に受け入れることが多いといわれる。特に親や教師の励ましや賞賛、助言などの下に、この時期の基本的な課題である勉強や自分のなすべき仕事を自分でやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導する必要がある。また、やり遂げてときの喜びや充実感を味わい、がんばることができた自分に気付くことができるようにすることが求められる。

2 指導観について

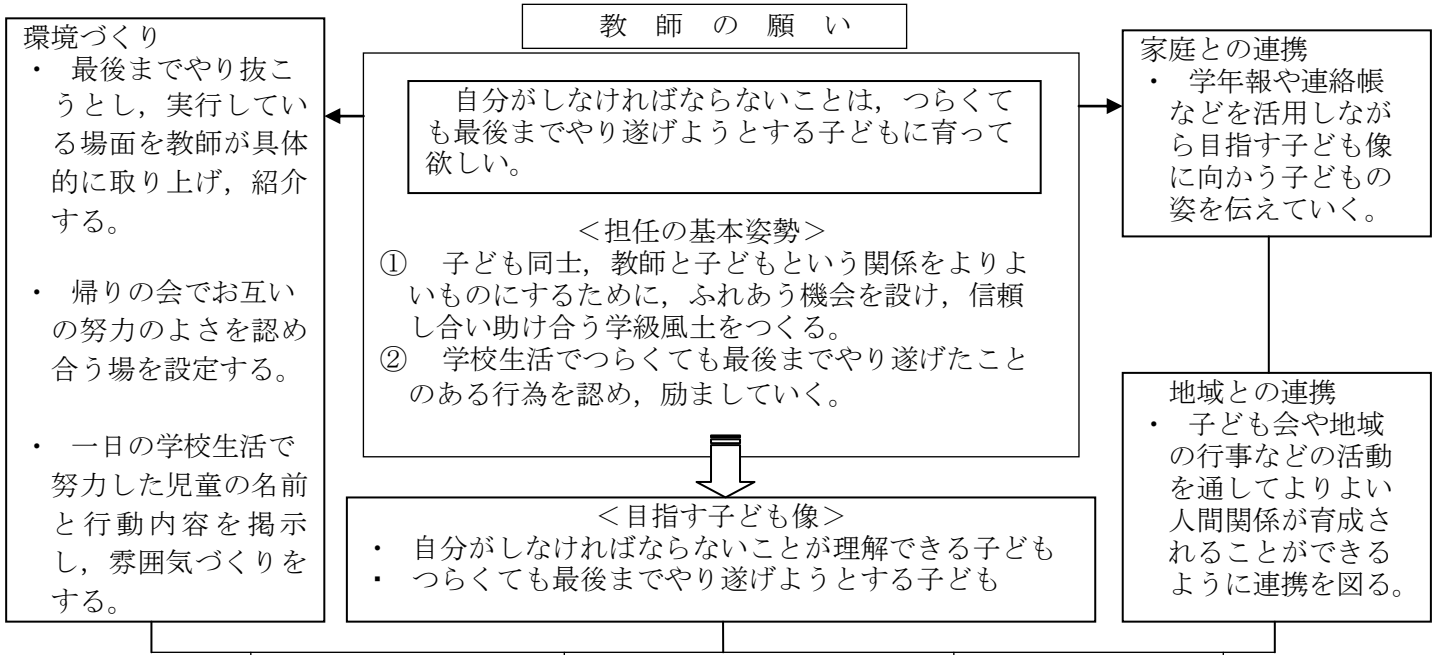
<道徳的価値と児童の実態>	<資料について>	<目指す子どもの姿>
<p>興味あることや関心の高いことに限らず、自分の目標の達成に向かって辛抱強くやり抜こうとする気持ちは、思いもよらない困難に直面したときにそれを乗り越える原動力になり、ねばり強く達成した喜びを感じさせることは、困難を乗り越える勇気や知恵につながっていくと考える。</p> <p>学級の子どもたちは、日々の学習や家庭学習、係活動等、自分のことを自分でやろうとすることの大切さや自ら立てた目標に向かって努力し続けることの大切さについては、ある程度理解し、実践しようとしている。</p> <p>他人からの賞賛や励ましを受け、努力しやり遂げた達成感から生じる心地よさを自覚し、ひたむきに取り組む子もいるが、長続きせずあきらめてしまうとする子もいる。</p>	<p><資料について></p> <p>本資料「がんばれポポ」は、甘えっ子のポポがはじめてお母さんと離れ、いろいろな困難に耐えながら、歯を食いしばってがんばり、最後はきれいで大きな花を咲かせることができた話である。</p> <p>子どもたちは困難に出会ったポポの姿に、普段の自分の姿を思い出しながら共感していくであろう。母親の言葉を支えに、不安や弱い心と闘い、自分の力で克服していく過程を追体験しながら共感できる資料となる。親からの自立に不安を覚えながらも、自分がしなければならないことは、つらくてもがんばろうという気持ちの大切さを感得できる適切な資料である。</p>	<p><目指す子どもの姿></p> <p>資料の主人公であるポポの気持ちになりきり話し合うことで、ポポの心の弱さに十分共感させながら、ねらいとする価値に迫っていきたい。そのために、母親への依存心が強いポポが、一人で生きていくことになった時の寂しさや知らないところへ行く不安な気持ちについて話し合うことで、自分の経験と重なる心情があることに気づかせる。また、葛藤場面では、岩の上で、四日間も苦しみながら我慢し続けるポポの気持ちや途中であきらめそうになる心の弱さについて共感的に理解させたい。</p> <p>中心場面では、頑張り通すことができた喜びのみを表現したり、母親への感謝を中心に考えたりするだけではなく、自分で頑張り通したことが心地よさにつながったことについて他者との対話を通して捉えさせたい。</p>

<復興教育（3つの教育的価値）との関連>

- 1 生命や心について【いきる】「⑤【やり抜く強さ】」とのかかわり
つらくて困難な状況であっても自分の夢や希望の実現に向けて最後までやり抜き生きようとするたくましさを育てたい。
- 2 人や地域について【かかわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」とのかかわり
他者（友達）との対話を通して、相手との価値意識の相違を比較し、相手の考えを尊重し合いながらよりよい考えや生き方を見出す喜びを味わわせ、人とのつながりの大切さを感じさせたい。

3 指導の構想（関連と発展）

「自分がしなければならないことは、つらくても最後までやり遂げようとする心」を育てる学級における指導の構想図



月	学級活動・体験的活動	道徳の時間	各教科の学習	日常指導・その他
	(学) 学級活動 (行) 学校・児童会行事 (体) 体験的な活動	勤勉・努力に関する主題を重点的に行う。	左記の道徳の時間にかかわりのある学習と関連を図る。 (体) 体験的な活動	子どもの実態に即し、継続的な指導を図る。
五月	○「春の遠足」(行) 春の野山を歩いたり、草花や樹木の様子、昆虫や鳥などの様子を観察したりする。		○ 国語 「たんぼのちえ」 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。	○ 子どもたちがつらくてもやり遂げることができるように働きかけたり、努力しようとする子を教師が紹介したりする。
六月	○「縦割り掃除」(体) 通年 汚れている所を見つけ、隅々まできれいにしようとする態度を養う。	◆「がんばれポポ」(6月) 勤勉・努力 自分がしなければならないことは、つらくても最後までやり遂げようとする心身を育てる。 ＜つらくてもやり抜く気持ち＞	○ 生活 (体) 「とびだせ仁王たんけんたい」 身近な地域に出かけ、自分が調べたいことと思ったことを最後まで調べることができる。	○ 縦割り掃除などで最後までやり遂げた友達の実態を発表させ、みんなで認め合えるようにさせる。
八月	○「かかりをつくりなおそう」(学) みんなのために必要な学級内の仕事は何かを考え最後まで活動しようとする態度を養う。			
十月	○「大運動会」(行) 団体競技・演技の練習で、疲れるような状況でも、自分の目標に向かって笑顔で最後まであきらめず行動することができる。		○ 生活 (体) 「とびだせ仁王たんけんたいⅡ」 身近な地域に出かけ、自分が調べたいことと思ったことを最後まで調べることができる。	○ 教師が、普段の生活で自分がしなければならないことをやり遂げようと努力する重要性を伝え、深めさせるようにする。
十一月	○「学年マラソン運動」(体) 体力向上のために、自分の決めた目標周に向かって、毎日、努力しようとする。		○ 算数 「かけ算」 かけ算九九の暗唱に取り組み、あきらめず暗唱練習に取り組むことができる。	
十二月	○「短縄運動」(体) 自分が決めた跳ぶ回数や技に挑戦しようとする。			○ 家庭との連携を密にししたり、他の職員と情報交換を密にししたりするなどし、児童一人一人の実態把握に努める。
二月	○「もうすぐ3年生」(学) 学習や生活を振り返らせることを通して、どのような3年生になりたいか考え、向上しようとする態度を養う。	◆「書き方の時間のこと」(2月) 勤勉・努力 自分がしなければならない勉強や仕事をしっかり行おうとする。 ＜自分のことをしっかりと＞	○ 生活 (体) 「3年生へジャンプ」 自分自身の成長に関心をもち、これまでの生活や自分の成長を振り返り、3年生からの自分自身の成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。	
三月				

Ⅲ 本時の指導構想

1 本時の指導

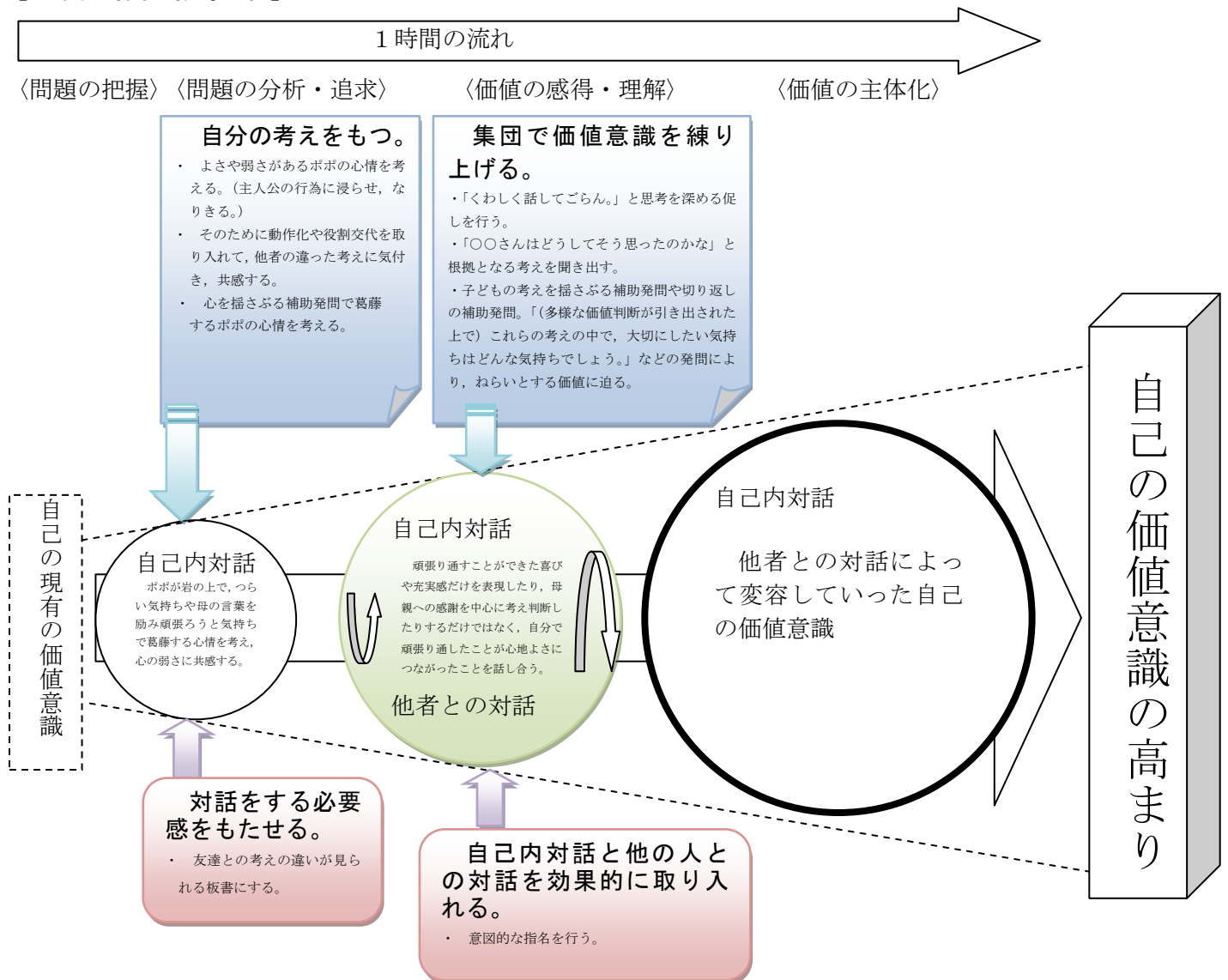
本時で目指す子どもの姿

資料の主人公「ポポ」の心情についての話し合いを通してポポの「心のよさや弱さ」に十分浸り（自己内対話）、「自分のことを自分の力で成し終えた喜びと充実感、つらくても頑張り通すことの大切さ」についての価値意識を表出させる話し合い活動（他者との対話）をすることにより、自己の生き方をより深く見つめ、自分の目標に向かって辛抱強くやり抜こうとする価値意識が高まる子どもが育つと考える。

授業像

道徳の時間の「問題の分析・追求」や「価値の感得・理解」段階において、自分の考えと他者との考えの違いを明らかにすることで自己内対話を図り、集団で価値意識を練り上げる他者との対話を位置付けた話し合いを取り入れることにより、自己のものの見方、考え方、感じ方をより深く見つめ、よりよく生きようとする価値意識の高まりが見られる授業になると考える。

【1 単位時間の指導過程】



2 ねらい

○自分がしなければならないことは、つらくても最後までやり遂げよりよい自分になろうとする心情を育てる。

3 展開の概要

	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点（・） 研究の手立て（◇）
問題の把握	<p>1 つらくてくじけてしまった経験を話し合う。</p> <p>○ しなければならないことを途中でやめてしまったことにどんなことがありますか。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。</p> <p>○ ポポのやったことについてどんなことが心に残りましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人勉強をやっていたが、テレビが気になって途中で止めてしまった。 鉄棒を練習していたら、お腹が痛くなったから途中で止めてしまった。 <p>具体的な子どもの姿 心の弱さに負けてしまった自己の価値意識を想起している。 (マイナスの価値意識)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ついやめてしまいたくなる心の弱さは誰もがもっていることに気付かせる。
問題の分析・追求	<p>広い野原の真ん中で、大きな花を咲かせた時、ポポはどんな気持ちだったでしょうか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> つらく苦しい目に合いながらも広い野原の真ん中で大きな花を咲かせることができたポポの心情をもとに本時のねらいへの方向付けを図る。
	<p>3 お母さんにはげまされながら風にふかれ、とび出していくポポの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 「おかあさあん、おかあさあん」と言いながらとび出していったポポは、どんな気持ちだったでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> とってもさびしいよ。 今まで、ずっと一緒だったから離れるとさびしいよ。 一人で生きていけないよ。とっても不安だよ。 <p>具体的な子どもの姿 母親への依存心が強く、甘えん坊なポポの一人で生きていくことになった時の寂しさや知らないところへ行くことになる不安な気持ちについて共感している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 甘えん坊のポポが一人で生きていくことになったときの寂しさや心細さ、不安な気持ちに共感させる。 <p>◇ 自己内対話を通してポポの不安な気持ちに共感させる。</p>
	<p>4 岩の上で、四日間、おかあさんの言葉を思い出しながらつらいことをがまんしているポポの気持ちについて話し合う。</p> <p>○ 岩の上でポポはどんなことを考えたでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 死んじゃうよ。 寒いし暑いし、もういやだよ。お母さんのところへ帰りたい。 のどもかわいて、もうたえられない。 一人でも頑張ってきれいな花を咲かせてよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面状況を把握させるため、臨場感溢れる場面絵を提示する。 夜は寒さ、昼の暑さに苦しみながら我慢を続けるポポの気持ちを共感的に受け止めさせるとともに、途中であきらめそうになる弱さにも気付かせたい。 <p>◇ ポポになりきり動作化することで主人公の苦し</p>

価値の感得・理解

5 ポポが根を深く伸ばし、芽を出して春になって大きな花を咲かせたときのポポの気持ちについて話し合う。

◎ 広い野原の真ん中で、大きな花を咲かせた時、ポポはどんな気持ちだったのでしょうか。

6 ポポにどんな言葉をかけてあげたいか話し合う。

○ きれいな花を咲かせることができたポポに、みんなはどんな言葉をかけてあげたいですか。

価値の主体化

7 つらくてもがんばってやり遂げた時の気持ちを話し合う。

○ 自分がしなければならぬことをつらくても最後までがんばってよかったと思ったことにどんなことがありましたか。

8 教師の話を聞く。

・ お母さんの言葉を思い出してがまんしよう。

具体的な子どもの姿

苦しみながら我慢し続けるポポの気持ちに共感させるとともに、途中であきらめそうになる心の弱さにも気づく。

- ・ やったうれしい。
- ・ お母さんありがとう。
- ・ がまんして大きな花を咲かせることができてうれしいよ。
- ・ つらかったけど、がんばり続けてよかったな。とてもいい気持ちだ。

具体的な子どもの姿

頑張り通すことができた喜びや充実感だけを表現したり、母親への感謝のみ考えたりするだけでなく、自分で頑張り通したことが心地よさにつながったことを話し合う。

- ・ 最後まで頑張ってくらいね。
- ・ がんばればいいことがあるね。
- ・ これから苦しいことがあってもがんばってね。ぼくもがんばるよ。

- ・ 毎日、一人でも練習を続けたら縄跳びの二重跳びができるようになった。
- ・ 算数の計算が苦手だったけど、あきらめないでいっぱい練習したらできるようになった。

い心情に迫る。

◇ 「母親の言葉」を思い出して、がまんしようとする心情について交代して演じることにより、自己のよさや可能性に気付かせ自己内対話を図る。

<手立て>

◇ 負けそうな心と一生懸命我慢する心の葛藤に気付かせる。

- ・ つらいことを頑張りぬき、花を咲かせたポポの喜びにひたらせる。

◇ ねらいに近づく発言を広げ、「なぜ、そのような気持ちになったのか。」つきつめたりゆさぶったりする切り返しの発問を行いながら、ねらいに向かって焦点化を図り、価値に迫りたい。

(他者との対話)

<手立て>

- ・ 対話することで変容した子どもの考えを吸い上げる。

- ・ よりよい生き方を求めることへのあこがれを膨らませたい。

- ・ 価値実現を図ったことの心地よさを味わわせることにより、実践意欲を高めていきたい。

- ・ たくましく生きる人や動植物の話をし、余韻をもって終わらせる。

〈資料分析図〉

- 1 主題名 「つらくてもやり抜く気持ち」
- 2 資料名 「がんばれポポ」(みんなのどうとく 学研)
- 3 ねらい つらくても自分がしなければならないことは、最後までやり遂げようとする心情を育てる。

